

第3期 2016年～2025年

地域と文化のハブとなる博物館活動



元 街頭紙芝居師 鷲塚隆さんと(2012年)

副館長

刈田均

2017年からの第3期の指定管理は、横浜市の文化財施設(横浜市歴史博物館・横浜開港資料館・横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館・横浜三殿台考古館)の事業連携を図り、施設の設置目的を効果的に達成するために、非公募、5館一括10年で(公財)横浜市ふるさと歴史財団が選定されました。

この間には、博物館を取り巻く制度と環境が大きく変容し、文化芸術基本法の改正(2017年)、文化観光推進法(2020年)の流れを受けて、博物館法が改正(2022年)され、博物館は生涯学習に加えて文化施設として、多様な連携を図りながら地域の活性化や社会的課題の解決に貢献する等の役割も求められるようになりました。

エントランスホールや展示室、遺跡公園等を使ったアート展やコンサート、地域の施設と連携した「よこはま縁結び講中」など、法改正を先取りした当館の取り組みはさらに深化し、「みなきたマルシェ」(2022年)、「歴史未来フェス」(2023年)へとつながっています。隣接地に都筑区民文化センター「ボッシュホール」が開館(2024年)してからは、都筑民家園を交えた三施設定例会を行うなど、港北ニュータウンの中核となる文化施設であることを意識し、連携を強化しています。展示でも、神奈川大学との「和船と海運」(2017年)をはじめとする大学や他の博物館、民間事業者などとの連携展示会を次々と開催してきました。

この期間の最も大きな出来事は、新型コロナウイルスの世界的流行でした。「集まる」、「触れる」といった行為が否定されて、活動を制限せざるを得なくなりました。財務的にも厳しい状況に置かれる中、「横浜の大名」展(2021年)ではクラウドファンディングを行いました。これはのちの横浜レキハク・パートナーズ(2025年)の制度化につながります。一方でコロナ禍では、ITを活用したオンライン講座や動画の配信、オンラインショップの開設やキャッシュレス決済、多言語解説アプリの導入など、新たな博物館活動がスタートします。

開館から20年を過ぎたこの時期から、建物や設備の老朽化が運営の障害になってきます。令和元年(2019年)にはエントランスホールの天井改修や外壁の大規模改修工事で8か月の長期休館があり、その後も空調機の熱源機器交換(2023年)、監視カメラの更新や照明のLED化(2025年)で休館を余儀なくされました。常設展示装置の故障の増加や大塚遺跡復元住居の劣化の進行は、博物館にとって厳しい状況としか言えません。当館のマスコットキャラクターが登場していた歴史劇場は2021年に停止し、2024年には機器が撤去されています。そのような中、2016年から遺跡に加えて常設展も組み込んだ展示解説ボランティアによる活動がそれをカバーし、展示の魅力を伝えてくれています。

2025年、開館30周年を迎えました。キャッチフレーズは、博物館がハブとなることをあらわした「つなぐ、つながる、つなげる」です。当館は、これからも過去と未来、地域と文化、そして市民のハブとなる博物館活動を続けていきます。

展覧会



4/2~6/5



6/18~7/10



7/23~9/4



9/24~11/27



12/10~1/9



1/28~3/20



おもなできごと



大塚遺跡まつり 会場風景



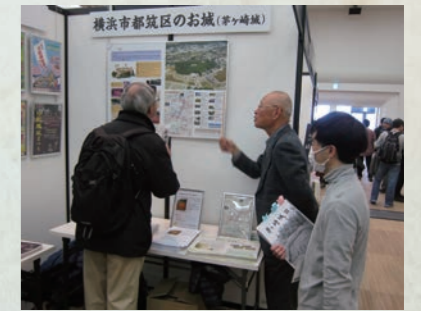
企画展「楽しい浮世絵歴史」関連
浮世絵スタンプ



横浜18区の文化財をパネル展示する
区民デーを開催



第5回 都筑・遺跡公園・民家園アート月間
ART&HISTORY
竹のオブジェの展示(上野雄次作品)
(博物館入り口)



お城EXPO初参加
(パシフィコ横浜)



企画展「杉原千畝と命のビザ」
写真家 寿福滋氏によるフロアレクチャー



企画展「よみがえる学校の文化財」関連企画
「まちをつくり人を育てる-
東京急行電鉄所蔵アーカイブ写真公開」



第1回 レックル総選挙結果発表
(博物館感謝デー)



企画展「津々浦々百千舟」関連 ボートツアー

ミニ展示

6月18日~8月7日 平将門の乱をめぐる
8月20日~10月2日 書写された後北条氏文書(チラシタイトル「横浜市域の後北条氏文書」)

展覧会



4/4~6/11



6/21~7/17



7/29~8/27



9/16~11/12



11/25~1/8



1/24~3/21

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

おもなできごと



企画展「君も今日から考古学者」
展示風景「遺跡が埋まる？」



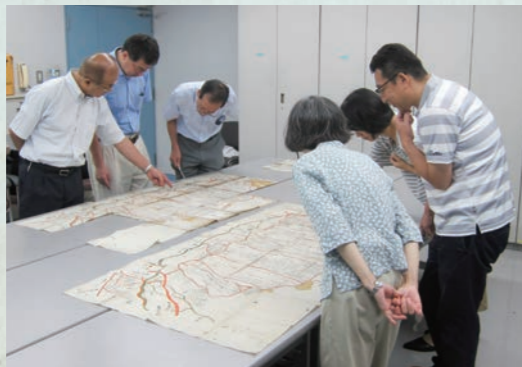
神奈川県立歴史博物館連携企画展
「歴史×妖×芳年」パンチの守が来館



鈴木靖民館長による myキャラ人気投票結果発表
(博物館感謝デー)



写真展「セン北☆街のうつりかわり」



『図説都筑の歴史』編さん 中世部会



子どもアドベンチャー2017
絵巻の取り扱い体験



横浜歴博もりあげ隊コンサート



ワークショップれきし工房「紙漉き」
楮の皮むき(工房)

ミニ展示

6月17日~8月6日 横浜市中心の中世資料 久良岐郡永田郷の中世文書
8月19日~10月1日 御馬、みよこへ行く 古代の牧と馬をめぐる

10月8日~11月26日 博物館実習展「こけし」を伝える - 博物館資料の整理・調査の中から -
12月23日~2018年3月31日 よみがえれ!横浜のハニワたち

展覧会



4/7~7/1



7/21~9/9



9/22~11/11



11/23~1/14



11/23~1/14



1/30~3/21



おもなできごと



企画展「君も今日から考古学者！」関連
「遺跡を掘ろう！」



つづきアート&ミュージックネクスト 展示風景



印融法印 500回忌記念講演会
僧侶によるパフォーマンス(講堂)



遺跡フェスタ2018「動く展示! 弥生マイム」
(藤居アルパッカー堂)

〈博物館感謝デー〉



おはなし会
(おはなしネットワークかたららん)



土器パズルをする青鬼赤鬼

ミニ展示

- 6月2日~7月16日 小机城の発掘調査
- 7月21日~9月9日 印融法印の書状
- 9月22日~11月11日 横浜漆器 透き絵の世界
- 11月20日~2019年3月31日 ちょっと昔を探してみよう

展覧会



4/6~6/2



6/15~7/31

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

おもなできごと



横浜歴博もりあげ隊
初夏のパロックコンサートin歴博



企画展「道灌以後の戦国争乱」展示解説
(エントランスホール)



企画展「道灌以後の戦国争乱」関連イベント
「葛西城戦士カツラギ」ヒーローショー



『図説都筑の歴史』刊行(11月9日)

〈休館〉

8月~2020年3月末
天井外壁 改修工事のため



足場が組まれていく様子
(正面玄関)



工事中外観
(南側からの様子)

〈休館期間中の活動〉



中山恒三郎家公開(都筑区川和町)



出張展示「都筑の歴史」
(都筑図書館)



出張ミニ展示「戸部小学校の140年と横浜」
(横浜市史資料室)

ミニ展示

4月6日~6月2日 寄贈資料紹介 明治期海軍士官の装飾品 -小杉家資料から-
6月15日~7月31日 寄贈資料紹介 資料でたどる活字の歴史 小宮山博史文庫から

展覧会

〈臨時休館〉
4月1日～6月1日
新型コロナウイルス
感染拡大防止のため



6/2～9/22



10/3～12/6



12/16～1/11



1/23～3/21



おもなできごと



着ぐるみレックル初登場



コロナ禍での来館受付



かやぶき屋根プロジェクト 竪穴住居修繕



お城EXPO2020「横浜の中世城郭」
(パシフィコ横浜)



新型コロナウイルスの流行で中止になった
幻の「博物館感謝デー」チラシ



2019年東日本台風による浸水被害を受けた
川崎市市民ミュージアム
被災古文書レスキューワークショップ参加



特別展「横浜の仏像」展示風景



コロナ禍でのエントランスホールコンサート
「蜘蛛の糸 みほとけのうた」

展覧会



4/10~6/27



7/17~9/20



10/2~11/23



12/4~1/10



1/22~3/6

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

おもなできごと



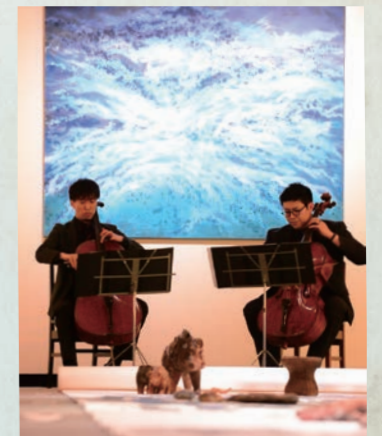
企画展「縄文ムラの原風景」関連ワークショップ
「おかしな竪穴住居やめました!」



博物館De怪談ばなし
(出演:三遊亭楽生、三遊亭朝橘)



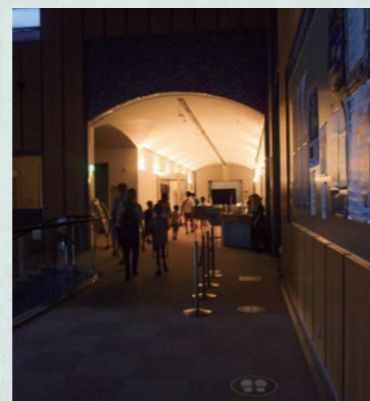
企画展「美術の眼、考古の眼」
ギャラリートーク



企画展「美術の眼、考古の眼」関連イベント
ナイトミュージアムコンサート
(企画展示室)



企画展「縄文ムラの原風景」関連
縄文マイム



ナイトミュージアム
夜の博物館体験



企画展「布 うつくしき日本の手仕事」
展示風景

展覧会



前期 3/19~6/19
後期 6/22~9/25



10/8~11/27



12/10~2/26



1/24~3/12



3/18~5/7

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

おもなできごと



特別展「みんながつなげる鉄道150年」
スタディサロンの風景



全国高等学校社会科学・郷土研究発表大会
五味文彦理事長によるあいさつ(戸塚公会堂)



よこはま縁むすび講中 和太鼓ワークショップ
(市民ギャラリーあざみ野)



企画展「追憶のサムライ」
ギャラリートーク



コロナ禍の中 チボリ兄弟舎参上



ナイトミュージアム~夏の夜空を見上げたら~
(藤沢市湘南台文化センターこども館協力)



みなぎたマルシェの夜間開催



企画展「活字」関連イベント
テキンワークショップ

■できごと

5月新型コロナウイルス感染症5類移行
1月能登半島地震発生

■博物館トピック

博物館感謝デーから歴史未来フェスへ
3月歴史劇場映像音響設備の撤去

展覧会



5/20~6/25



7/15~10/1

〈休館〉
10月2日~2024年2月2日
機械設備更新工事のため



2/3~3/10



おもなできごと



第1回歴史未来フェスの開催
(エントランスホール)



大塚遺跡本格調査50周年記念講演会
「大塚遺跡と遺跡群研究」
講師：小宮恒雄氏



常設展示多言語解説アプリに
ドイツ語追加収録中



文化財展関連事業
「山本勉×みほとけトークイベント」
(横浜市役所アトリウム)



バックヤードツアー くんじょう
燻蒸室の見学



かやぶき屋根プロジェクトによる
竪穴住居の修繕



ホワイトデー特別企画
ドッキーを作ろう!



歴史博物館改修で取り外された鳥ロボット

■できごと

ボッシュ株式会社本社都筑区 移転
ボッシュホール(都筑区民文化センター)オープン

■博物館トピック

「横浜レキハクパートナーズ」立ち上げ

展覧会



3/30~6/23



7/13~9/1



9/14~11/10



11/23~12/15



12/24~1/26



2/8~3/16

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

おもなできごと



れきし工房「土偶づくり」(工房)



第2回歴史未来フェス みなぎたマルシェ
(大塚・歳勝土遺跡公園)



開館30周年記念ポスター展

〈開館30周年記念講演会〉
「横浜三万年の歴史の軌跡」チラシ



いけばなワークショップ(都筑民家園)



特別展「寶林寺 東輝庵展」関連
日本画ワークショップ
(体験学習室)



企画展「仏像入門展」ワークショップ



ディスカッション

展覧会



Part1 4/26~6/1
Part2 6/14~7/27



8/9~9/7

〈休館〉
9月8日~11月21日
設備工事のため



11/22~1/18



1/31~3/15



1/31~3/15



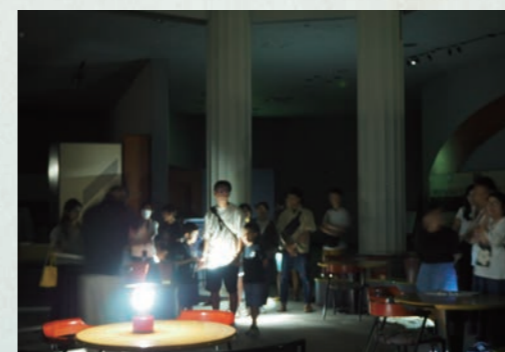
おもなできごと



開館30周年記念 特別展「横浜の文化財」
Part1 修復 展示風景



開館30周年記念特別展「横浜の文化財」
Part2 伝承 ギャラリートーク



親子向けナイトミュージアム



企画展「みすてりい・おぶ・こもんじょ」関連講演会
「ファミリー・ヒストリーの実験」講師：井上攻氏



特別展「横浜の文化財」関連ワークショップ
「江戸手描き鯉のぼりを染めてみよう!」(工房)



特別展「横浜の文化財」関連ウォーキング
「館長厳選! 史跡巡り」



工事休館中の常設展示室



ボッシュホールぼうさいイベント
「たのしくあそぶぼうさいアートランド」
パネル展参加

地域と横浜市歴史博物館

(かやぶき屋根プロジェクト・よこはま縁むすび講中)

考古担当学芸員 橋口豊

横浜市歴史博物館ではこれまで地域との連携として様々な事業が行われてきました。本稿では筆者が関わってきた「かやぶき屋根プロジェクト」と「よこはま縁むすび講中」について雑感を記します。

かやぶき屋根プロジェクト

「かやぶき屋根プロジェクト」は、国指定史跡大塚・歳勝土遺跡の一部を保存・公開した大塚・歳勝土遺跡公園内に復元された建物の茅葺屋根の修繕を中心とした事業です。以下のとおりに目標を立て、2017年より、活動を始めました。

- ①茅葺屋根職人に教を請い、自分たちでも簡易な修繕を実施できる技術の獲得。
- ②素材となる茅の確保と活用。
- ③上記2点について、将来的に公募によるボランティアとともに継続して実施する。

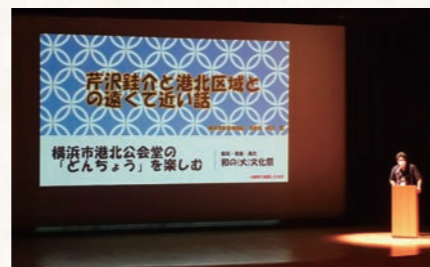
地域住民や、茅・茅葺屋根に興味がある市民と共に活動を行いながら、2021年にはシンポジウムを実施するなど継続した活動を目指しています。

よこはま縁むすび講中

「よこはま縁むすび講中」は、横浜北部(旧港北区4区:港北区、緑区、青葉区、都筑区)に存在する地域文化遺産(有形・無形に限らない地域に根差した文化的遺産)と市民をつなぐ取り組みとして、2021年よりHPによる情報発信や横浜北部4区の各施設・団体(横浜市歴史博物館・小机城のあるまちを愛する会・大倉精神文化研究所・横浜市民ギャラリーあざみ野・緑区民文化センターみどりアートパーク)が中心となって、組織間の連携事業や地域の文化を担う団体のイベント実施の補助、HP(下記二次元コード参照)を活用した地域の掘り起こしなどを行ってきました。

2023年には各施設の活動をまとめたポスター展を実施し、2024年には第15回地域再生大賞(地域再生大賞実行委員会)優秀賞を受賞するなど、こちらについても開始当初のような大きな事業は少なくなったものの、継続した活動が実施できています。

以上の事業を継続していくとともに、横浜市歴史博物館が地域住民のよりどころとなれるような幅広い活動が行えるようにしていきたいと考えています。



港北公会堂の「どんちよう」を楽しむ



かやぶき屋根PJTもどき?!



よこはま縁むすび講中

展示解説ボランティア導入

元遺跡公園ガイドボランティア担当 久保暢子

2015年4月から歴史博物館勤務となり、初めて遺跡公園ガイドボランティアの担当となりました。再び異動で離れるまでの6年の間には、常設展示解説ボランティアの導入という大きな体制の変化のほか、様々な要因によってその活動内容も変化の多い時期だったのではと思います。

2016年から始まった常設展示室の解説ボランティア導入については、それまでに市民や来館者からの要望が多かったこと、そして現役で活動しているガイドボランティアさんや卒業生の横浜さいかちの会の方からも希望する声が多かったことから、博物館も導入に向けて検討を続けてきました。活動開始に向けた準備は、前年度に現役ガイド、卒業生へのお知らせと参加募集から始まり、解説マニュアルの作成、学芸員による研修の実施、待機場所の設置など・・・と急速に進んでいったと記憶しています。隔週だった活動日が基本的には毎週になり、その内容も、時間や案内ポイントの概ね決まったガイドが多い遺跡公園に対し、展示室では広い時代設定の中で来館者のニーズに合わせたガイドをしていただくことになりました。初年度は試行という形で、来館者の反応や対応したボランティアさんの経験をもとに、ガイド内容や体制についても検討しブラッシュアップしていき、研修では、学校対応に向けた財団エドゥケーターによる研修や、横浜さいかちの会と共催で「常設展示の舞台を歩く」という各時代毎のまち歩きなども行いました。

ハードだったと思いますが皆さん熱心に参加されていました。

その後、夏の猛暑日が多くなり熱中症防止対策として遺跡公園ガイドを縮小したり、修繕工事による休館中は控室を工房に移し遺跡公園ガイドのみ継続したり、さらにそのままコロナ禍となり・・・変わる状況や前例のない事態に手探りの日々でしたが、チーフの方をはじめガイドボランティアの皆さんにはいつも柔軟に対応していただき、積極的な提案は本当に心強く、いつも助けていただきました。



展示解説ボランティア開始



研修 常設展の舞台を歩く「神奈川宿」にて



博物館エントランスホール

2023年から「歴史未来フェス」と名付けたイベントを開催しています。2019年まで「博物館感謝デー」として親しんでいたものをリニューアルし、新たな地域イベントを立ち上げることを目標にスタートしました。開催時期を気候の良い5月~6月に設定しなおしたことに加えて、最大の変化は企画運営として、地域で活動する団体に参加してもらったことです。企画運営を委託した「みなきたマルシェ実行委員会」のメンバーは、日頃から月一回のマルシェをはじめ様々なイベントを通して地域の人々が触れ合えるコミュニティづくりを行っていました。実行委員会の呼びかけで、第1回歴史未来フェス(2023年6月2日~4日)には博物館周辺の地域で活動する30以上の個人や団体が参加し、多彩なワークショップをはじめ物販店舗、キッチンカーの出店、アートパフォーマンスなどの企画が実施されました。エントランスには常に音楽が鳴り響き、かわるがわるパフォーマンスが繰り広げられ、博物館前のエリアまで広がる各出店ブースは地域で活躍する方々とお客さまとの交流の場になりました。



遺跡公園

初回三日間の延べ入館者数は5千人を超えました。初来館だという近隣住民も多く、コロナ禍後の再出発イベントとしては大成功と言ってよいものだったでしょう。同時に多くの課題も残りました。第2回開催に向けて最初に取り組んだ課題が、施設利用ルールの周知徹底でした。博物館は資料保存のため、来館者に求める規制が多い施設であり、それが敷居の高さを感じさせる一因にもなっているかと思います。地域を知るための貴重な資料を子どもたちやその先の代まで大切に守り伝えていくために設置されているルールであることを丁寧に伝え、このような館の活動にも一緒に取り組んでもらいたいと考えています。当館がこれからも地域の文化施設としてみなさまに親しんでもらえるよう、歴史未来フェスとして始めた活動は今後も続けていきたいと思っています。



土器パネルから顔出す花澤



博物館前